

青陵

ごあいさつ

同窓会長 加川 英郎 (4期)

倉敷青陵高校同窓会会員の皆様、日ごろより同窓会活動にご協力、ご支援をいただき誠にありがとうございます。

今年夏の本部同窓会総会で、現役員を再任、副会長2人の新任に同意いただきました。

各地区の総会はおかげさまで毎年、本部の倉敷300人をはじめ、東京120人、近畿90人、九州30人の参加をいただいています。

同窓生の絆を深め情報を共有する場として、毎年「同窓会だより」を発行、全員配布を始めて今号(47号)で5年になります。

各地区の総会と「同窓会だより」を二本柱に、同窓会の活性化に努めてまいります。

今後とも同窓会に格別のご理解をいただきますようお願いいたします。



校長 田中 尚 (同窓会名誉会長)

同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のことと拝察申し上げます。また、平素から母校へのご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年の日中文化交流の機会を得、国際学力調査(PISA調査)で世界一の成果をあげている上海市の新中高級中学校(高校)と交流しました。「英語教育」など参考になった一方で、青陵高校の教育に「確信」を感じました。新中高級中学の校長と意気投合した「リーダー育成」に、青陵高校は使命感をもって取り組みます。

同窓会の皆様におかれましても、母校青陵高校へのより一層の応援をよろしく願いたします。会員の皆様のますますのご活躍とご多幸をお祈りいたします。



副会長 今岡 道雄 (13期)

同窓会会員の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、副会長に就任しました今岡と申します。評議員・理事として30年以上務めさせていただきました。古き青陵を知る者の一人として何かのお役に立てれば、と思い最後のご恩返しのためにお引き受けしました。

卒業生の方々の各方面でのご活躍は目覚ましく、同窓生の一人として大変嬉しく感じています。文武不岐の伝統を受け継いで伸び伸びと勉学に励んでおられ、進学校として不動の地位を築いております。これも教職員の皆様の熱心で細かいご指導のおかげと思っております。

微力ながら青陵の発展のために会長を補佐して頑張っていくつもりですので、よろしくお願いいたします。



副校長 池本 康彦

この度の異動で赴任してまいりました。百有余年の輝かしい歴史と伝統をもつ本校に勤務させていただき幸運に恵まれたことを感謝したいと思います。

伝統という言葉で思い浮かぶのがイギリスの詩人T.S.エリオットです。彼は「伝統と個人の才能」で次のように述べています。「伝統を相続することはできない。それを望むならば大変な努力を払って手に入れなければならない。伝統は第一に歴史的意識を含んでいる。これは一時的なものに対する意識であり、永続的なものに対する意識であり、また二つを一緒に意識するものである」と。

同窓生の皆さんが惜しみなく大変な努力を注ぎ込まれた母校が、深い歴史の流れにボールのようにそびえる姿を見る思いがします。



副会長 小銭 和明 (23期)

同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。この度、副会長を拝命いたしました小銭と申します。

これまでに倉敷青陵高校からは35,000有余の卒業生を輩出し、国内のみならず世界中で大活躍されていることに心より敬意を表します。

この同窓会が母校と卒業生と三位一体となるような活動を続け、皆さんが益々ご活躍、ご発展くださるよう、大変微力ではございますが頑張っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。



教頭 石田 桂子

4月に赴任してまいりました。平成8年度から20年度まで13年間、教諭として勤務しておりました。6年ぶりの青陵高校は、耐震工事で整備された校舎、ICT機器が設置された教室など環境がより素晴らしくなっています。

生徒たちは以前と同様、「自主と責任」「文武不岐」をモットーに、学習・部活動・行事等にはつらつと取り組んでいます。これこそ、先輩方から引き継いだよき伝統、気概、青陵マインドだと感じております。

今後ますます超高度情報化のグローバルで多様な社会を生き抜く力を育成する教育が求められます。同窓生の皆様には、変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



同窓会本部総会

(平成27年8月2日、倉敷アイビースクエア)

28期 小原 ^{みほこ} 実甫子 (旧名 直子)

連日の猛暑続きの折でしたが、恩師の米井郁人、水間正雄両先生をはじめ総勢約300人の参加をいただき、妹尾美穂子さん(31期)の司会により盛大な総会を開催することができました。

武部洋治副会長(15期)に開会のお言葉をいただき、昨年に続き今年も現役青陵生によるコーラスで幕を開けました。青陵校歌、ストーリーを思い出す組曲「もも太郎・うらじゃ」などパワーを感じる澄んだ混声合唱に心を洗われました。コーラス部の皆さん、どうもありがとうございました。

続いて、加川英郎同窓会会長(4期)、田中尚名誉会長(校長)からご挨拶をいただきました。田中名誉会長からは、青陵生の学業と部活動の目覚ましい活躍ぶりを拝聴し、生徒と先生方の努力の賜物と、同窓生として大変誇らしく思いました。

総会議事、各支部の活動報告、恩師の先生からのお言葉をいただいた後、当番幹事の尾原美由紀さん(38期)の発声による乾杯で懇親会に移りました。歓談中は皆さん一様に18歳にタイムスリップ。当番幹事の各期ごとの集合写真撮影も行われ、賑やかな時間が過ぎてゆきました。

宴も終盤。17、18期の有志による陵歌の後、全員で校歌を斉唱。力強い合唱と同時に映されるDVDにウン十年前の青陵生に逆戻りしていました。18歳の時間もあっという間に過ぎ、岡田展弘副会長(25期)の「皆さん益々元気で過ごしましょう」で締め言葉となりました。

今日初めてお目にかかった方々も多くいらっしやり、その方々と青陵同窓会で繋がっていることに御縁の不思議さを感じ、ありがたい思いでした。先輩、後輩の元気なお顔を拝見しパワーをいただけるのも同窓会のよいところではないでしょうか。皆さん、どうぞお元気で過ごされますようお祈り申し上げます。

(8月15日 記)

参加者ひとこと

* 野山義兼さん (7期)

「この会は過去に数回出席したことがありますが、今回当番幹事で30年ぶりの参加です。剣道部が全国準優勝した時のメンバーです。生徒会長もやりましたよ。証券会社を定年退職後はブティックや中華料理店などを経営しました」

* 荒木妙子さん (28期)

「えっ、私に(同級生から取材の)ご指名? 私面白くないですよ(笑い)。中学、高校と陸上をやっていました。踊りも好きでね、文化祭では創作ダンス、卒業してからはジャズダンス。今はグループホームで介護の仕事をしています」

* 尾原(旧姓富部) 美由紀さん (38期)

「この会は2度目です。当番幹事で乾杯の音頭をさせられました(笑い)。緊張しましたよ。在学中は無線科学部で、なぜか女子は校内放送の担当でした。子どもが3人いて長女は青陵を卒業しました」



「やあ久しぶり、元気?」と各テーブルは大盛り上がり

総会で承認された新役員は次の通り。(○印は新任、任期は2年)
名誉会長 田中尚(校長) / 会長 加川英郎(4期) / 副会長 武部洋治(15期)、井上善弘(21期)、岡田展弘(25期)、徳田政太郎(35期)、○今岡道雄(13期)、○小銭和明(23期) / 理事 進藤謙蔵(1期)、古市博(2期)、能登原節治(3期)、鴨井透(4期)、横原善彦(同)、高橋勝(5期)、櫛村英治(6期)、野山義兼(7期)、

役員改選

新副会長に今岡さん、小銭さん

○遠藤堯之(8期)、小山博通(10期)、雨宮統一(11期)、中桐泰(12期)、○三宅邦和(16期)、三宅量久(17期)、宗田正志(18期)、梶田和肖(19期)、林俊輔(28期)、武内立爾(29期)、細田貴道(31期)、田中一男(32期)、山畑賢一(52期) / 会計 森定祐子(25期)、有馬博文(32期) / 書記 山中桂子(31期) / 会計監査 大橋義則(14期)、神鳥忠成(32期) / 顧問 石原隆司(3期) / 事務局 林俊輔(28期)、船越勝(同)、有馬博文(32期)、渡辺真由美(33期)、古谷仁志(59期)

私の青陵時代

1期 古城 敬介



私は青陵1期生となっていますが、正式には旧制倉敷中学の卒業生です。その後の青陵高校が永きにわたり広範囲に支持され信頼されていることは、後輩の皆さまのたゆまぬ研鑽の賜物と頭の下がる思いです。

戦時中の生徒は学徒動員で勤労奉仕ばかりに出て十分な勉強ができていない。これが世間の認識でしたが私たちは違いました。

田植え、稲刈りの農繁期には何日間も出征兵士のいる農家へ出向いて手伝いをしました。当然、学校の授業は少なくなりました。その上、私のような農家は帰宅後も畑仕事を手伝わねばなりませんでした。

夕食後ようやく自分の時間がきます。時間がないと知識の習得を渴望。私たちはがむしゃらに勉強しました。

勉強するといっても物不足でノートも紙もありません。頭の中に書くしか方法がありませんでした。一人の生徒がコンサイス英和辞典の丸暗記を始めました。またたく間に全員に広がりました。

現在の体育の時間は教練という科目でした。内容は遠方ま

時間惜しみ英和辞典丸暗記

で歩くこと。持久力を高める目的だったと思います。吉備津神社まで何回も行ったことを覚えています。歩く道中は英単語を覚える絶好の機会でした。質問者、回答者が適当に交代して繰り返しました。付き添いの教官は「黙って歩け」と言いたかったと思いますが、黙認してくれていたのはありがたいことでした。

勉強はもっぱら予習でした。予習段階で大体のことはマスターしておき、授業で確認するというやり方です。テストの結果は高得点者が多く、100点が当たり前という認識でした。

卒業後は多くの大学教授、上場企業の役員などを輩出しました。異色の存在は元倉敷市長渡辺行雄君が挙げられると思います。

戦前、戦中、戦後。激動の時代の中で与えられた環境の下、それぞれが最善を尽くして生きてきました。わが青春に悔いなしの気持ちです。

□…古城さんは中国銀行を定年退職後、総社市の学習塾で英語を担当。自らも長年、英会話を学んでいます。倉敷市在住。

〈揮毫〉澤田虚遊(真示)氏(21期)元岡山県書道連盟会長。
〈写真〉校門を入った正面にある「十三本の松」。昭和13年3月、倉敷高女が現在地に移った記念の植樹で青陵の文化財です。

表紙

77年たった現在も13本は健在です。「松の操はおのが友…」と校歌にも歌われた同校のシンボルでした。平成元年11月、青陵創立80周年を記念してそばに記念碑が建てられました。

ようこそ先輩！

平成26年にアメリカで最も権威のある医学賞「ラスカー賞」を受賞して世界的な脚光を浴び、ノーベル賞候補としても注目されている京都大学大学院教授・森和俊さん（分子生物学）＝28期＝が同27年5月11日午後、母校青陵高校体育館で「分子細胞生物学への誘い」と題して講演、生徒らに熱く語りかけました。

ラスカー賞・森和俊京都大学大学院教授（28期）母校青陵で講演

グローバルリーダーの育成に力を入れる同校が招いたもので、世界トップクラスの先端研究者は分子生物学の歩みを通じた自らの取り組み、青陵・京大時代の思い出、これまでの生き方を2時間30分にわたり語りました。

体育館を埋めた全校生徒、教職員、保護者ら約1,000人は大学院並みのハイレベルな「特別講義」に熱心に耳を傾けました。

分子生物学は、有機化学と微生物学が結びついて生化学に発展、タンパク質研究センターの生化学からDNA（デオキシリボ核酸）中心の研究に発展したものです。

森さんはプロジェクターで資料を拡大投影して説明。壇上の生徒代表3人と対話しながら進行了しました。

英米の科学者の話として、「DNAの立体構造が『二重らせん』になっていることが発見されたのが1953年。『奇跡の年、といわれ、分子生物学発祥の特別な年と位置付けられています』と前置きして「ロザリンド・フランクリンという女性研究者が撮影したDNAのX線写真をモーリス・ウィルキンスから紹介されたジェームズ・ワトソンとフランシス・クリックが解析して『二重らせん』構造を科学雑誌に掲載しました。貴重なデータを提供したフランクリンは5年後に亡くなり、あとの3人はその後、ノーベル医学生理学賞をもらいました。フランクリンは37歳の若さでした。大量のX線を浴びたためと言われています。人のデータをうまく利用してでも先陣を争う厳しい戦いが繰り広げられました」という驚くべき報告に、生徒たちは科学界の厳しさを垣間見たようでした。

「後日談があり、ワトソンは人種差別発言で名声が地に落ちて困窮、ノーベル賞のメダルを競売にかけ、5億円で落札されました」という話には生徒は驚いたようでした。

ちなみに、落札は2014年12月。存命者では史上初のノーベル賞メダルの競売で、落札者のロシアの富豪が無償で本人への返還を申し出ました。共同受賞者のクリックも死後、メダルが競売、落札されました。人のデータを利用した報いなのか、分子生物学の開拓者は哀れでした。

さらに、「ノーベル賞の共同受賞は3人まで。（生体内で回り続ける）ATP合成酵素の研究で米国人ら2人が1997年、化学賞をもらいましたが、同じ研究レベルの日本人2人は涙のみました」と、一般には全く知られていない裏話を披露してくれました。

分子生物学が誕生してわずか62年。森さんの資料の中だけでもこの分野からノーベル化学賞、医学生理学賞の受賞者が26人もいます。この中には、日本人初の医学生理学賞・利根川進さん、iPS細胞の山中伸弥さんが含まれます。森さんは利根川さんに影響を受けたそうです。この分野はノーベル賞の「大票田、といえます。

壇上の生徒には「ノーベル賞のメダル、落札額は？」という珍質問があり戸惑っていましたが、感染症の「狂牛病とは？」の質問には生徒が完璧に答えるなど、楽しく和やかなやり取りがありました。

自らの道程を振り返り、「運動神経のない私が中学時代から取り組んだのが剣道。近隣では唯一剣道部のある青陵へ来ました。湯川秀樹さん（日本初のノーベル賞受賞者）らの京大理学部にあこがれ素粒子物理学を目指したんで



森 教授

【森和俊教授略歴】 分子生物学者、薬学博士。児島・本荘小学校、味野中学校、倉敷青陵高校、京都大学薬学部卒業、同大学院薬学研究科博士後期課程退学。米テキサス大学博士研究員、(株)HSP研究所主任研究員などを経て現在、京都大学大学院理学研究科教授。ガードナー賞、ラスカー賞、紫綬褒章、倉敷市民栄誉賞など受賞多数。倉敷市児島塩生出身、京都市在住。家族は妻と1男2女。

すが、やや点数が足りなくて志を曲げ工学部へ入学。遺伝子工学に興味を持ち薬学部へ転部しました。オーバードクター（余剰博士）で岐阜薬科大学へ助手として移り分子生物学に取り組みました。第一志望に入れなくても転部により志望に近づく道もあるということを見せてくれました。

さらに、「がんのタンパク質の研究をしましたが教授の手伝いばかりで発展性がない。もっと面白いことをしたい、今の境遇は自分の能力の問題か、環境の問題か？ 助教授になるには留学しかない、よし環境を変えよう」と、一念発起してアメリカの大学へ博士研究員として留学しました。英語をテレビの字幕で勉強。慣れるのに半年以上かかりましたが、ここで出会ったテーマが細胞の小胞体機能の解明。この4年半の留学で私の人生が大きく変わりました」と、前半生の努力、苦労を打ち明けました。

自らは「人事を尽くして天命を待つのではなく、天命を信じて人事を尽くす。らせん階段の上を目指し自分を信じてあきらめずに挑戦すること。それには健康が大切。剣道で鍛えたのがよかったですね」と攻めの姿勢を貫き、「人間万事塞翁が馬」「人間至る処青山あり」の境地に達したそうです。

研究の楽しさ・難しさ、苦しい時の乗り越え方、柔軟な思考、精神面の鍛え方は？ 在校生から次々出る質問には「未解決の問題を自分の切り口で解いていくことが楽しい。研究生生活は26年になりますがまだ未完成的です。何が問題か、選択肢がたくさんあり問題を見つ

けることが一番難しい。苦しい時は自分を信じてやるしかない。院生と意見をぶつけ合いますね。（理系なら）数学、物理、生物など興味を持ちながら幅広く取り組むと柔軟性が出ます。学会発表と剣道の昇段試験で精神を鍛えます。真剣勝負の場を重ねていくことで心が落ち着き、どんな場面でも上がることがなくなります」と、貴重な話を交えテキパキ答えていました。

最後に在校生に「今は太い根っこをつくる時。世の厳しさに負けないよう心と体をしっかり鍛えてください。モヤシにならないように！」と力強いメッセージで締めくくると、しばらく生徒からの拍手は鳴りやみませんでした。

青陵のモットー「文武不岐」を実践した人だけに説得力がありました。進学を控えた3年生は進路選択に大きな刺激を与えられたのではないかと思います。

森さん、長時間ありがとうございました。□…森さんは、これまでも青陵剣友会（剣道部OB会）の行事で時々来校しています。

□…16面に森教授による生徒のノーベル研究室訪問記があります。



母校青陵高校で講演する森和俊京都大学大学院教授（左の奥）

恒例の東京青陵会総会が開催されました。当日は朝から曇っていましたが、幸い雨に見舞われることはありませんでした。会場には多くの皆様が足を運んでくださり、総勢120人ほどの参加となりました。

ご来賓としては、本部同窓会から加川会長、武部副会長、母校から教頭の石田先生、船越先生、恩師の河手先

初企画じゃんけん大会成功

生(数学)、有岡先生(化学)、倉敷市東京事務所の八方所長をお招きし、故郷の昨今や同窓生・在校生の活躍ぶり、母校のさらなる発展について懐かしくも楽しいお話を賜りました。

総会の流れは基本的に例年通りです。ご来賓の皆様によるご挨拶の後は歓談、席替え、最後に校歌・陵歌・応援歌の合唱と続きました。司会を務めてくださったNHKの山下アナ(41期)の進行のおかげで雰囲気は終始明るく、会は順調に進みました。

今回新たな試みとして行ったのは、じゃんけんイベントです。壇上の東京青陵会・関藤会長とじゃんけんをして勝ち残った方10人に岡山県ゆかりの商品をプレゼントするというものですが、これが予想以上に盛り上がったことは楽しい思い出となりました。

また、今春青陵高校を卒業したばかりの4人の大学生の皆さんにも壇上でお話を伺うことができました。

今年度、当番幹事を務めさせていただいたのは私たち39期卒業生です。これまで総会出席の実績がほとんどないため、多くの先輩方にご協力とご助言を仰ぎつつ、失敗を重ねながら準備を進めました。

それでも「どうすれば出席者の皆さんに楽しんでいただけるか」を真剣に話し合ったことは良い経験となりました。ご尽力いただいた先輩方、関係各所の皆様方には本当に感謝しております。

そして、無事に当日を迎えられたこと、大過なく総会を終えられたこと、たくさんの方々が、中には遠路はるばるお越しくくださったこと、さらには「楽しかったよ」と笑顔で言ってくくださったことに39期一同、心から感謝申し上げます。



120人の同窓生がそろった東京青陵会のメンバー

参加者ひとこと

*高岩利彦さん(5期)

「毎年参加しています。防衛大学校を卒業して自衛官を32年務めました。青陵時代は防大受験に忙しく(笑)、クラブ活動はしていませんが、防大時代はラグビー部でした。5期の東京五陵会にも参加。倉敷ふるさと大使を務めています」(埼玉県川口市在住、倉敷市出身)

*佐藤(旧姓大杉)真喜子さん(38期)

「昨年、当番幹事をして大変さが分かったので参加しなければ、と思うようになりました。青陵時代はバスケット部の主将を務めました。大手

IT関連の会社に勤めています。バリバリのキャリアウーマン? いえいえ…」(東京都在住、倉敷市出身)

*藤原諒祐さん(66期)

「今春、青陵を卒業したほやほやの同窓生で、東京大学に入学したばかりです。思考することが好きなので哲学専攻を考えていますが、将来の職業はまだ決めていません。東京青陵会は卒業式直前の同窓会入会式で知りました」(東京都在住、笠岡市出身)

あなたはがんを宣告されたら、どのように対処しますか?

究極の命題に対し懸命に生きる女性の講演会が平成27年5月、岡山市で開かれ、がんと向き合って命を輝かせる姿勢が聴衆の共感を呼びました。

この女性は福島県にある学校法人ザベリオ学園の学園長を務める守屋博子さん(10期)です。母校のノートルダム清心女子大学の生涯教育講座に招かれ、「生かされて、生きる喜び」と題して里帰り講演をしました。新聞記事と守屋さんへの電話インタビューで講演の概略を再現しました。

ザベリオ学園学園長

岡山で、がん患者の守屋博子さん(10期)

55歳の折に受けた健康診断で乳がんの宣告を受け「長くてもあと10年」と言われました。思いもかけないことだったので大変なショックでしたが、「あと10年の命をあげるから、あなたはどのような人生を歩みますか?」と問われているように感じました。

生きることを考え前向きに挑戦

今までの人生を振り返って後悔しながら、これからどう生きるかを考えました。もし80歳だったらもう一度生き抜こうとは考えなかったかもしれませんが。残る老後を安らかに過ごせたら、それでいいと思ったことでしょう。

講演

恩師のシスター(修道女)から「生きることを考えなさい」ときっぱり言われました。その時、命ある限り自分を磨き続けなければ、そして一日一日が挑戦だと思うようになりました。がんという境遇は変えられない生き方は変えることができます。

あのショックから20年。日ごろ、自分の心に誓っていることがあります。心を込めて仕事をする、毎日感謝すること、一日一回大笑いすること、一日30品目の食事をする、すべてを前向きに考えること一です。人生の一番大事なことを学んだように思います。

「人のために尽くさない」「少しでも余裕があれば困っている人を助けなさい」という大学時代の教えが私の人生の根底にあります。自分の命が短くなった中で最後に自分に何ができるかを考えたとき、それは教育でした。

子どもたちが毎日、いろいろなことを笑顔で話してくれることがうれしい。与えられた命を最後まで目標をもって精いっぱい生きること、子どもたちに生きることの大切さを伝えていきたいと思えます。

□…参考 平成27年6月16日付山陽新聞夕刊

□…守屋(旧姓坂本)さんは倉敷市出身、福島県在住。

□…文中の「シスター」は現在、同大学で理事長を務める渡辺和子さん。



生き方が共感を呼んだ守屋博子さんの講演=山陽新聞より

寄稿

これでも田舎では神童といわれた中学時代、「高校？どこでもいけらー！」的妙な自信があつて、最終的に選んだのは5%枠での総社東中↓青陵進学でした。入学してみると総社からはもちろん私だけ。地縁もなく友人もない、ナイナイ尽くしのなんとも心細いスタートでした。



10期 高谷雅史

春を謳歌する「なんてトテモ、トテモの日々でした。当初トップ集団にいた成績も、やがて中ほどのグループに飲み込まれ、何か部活をと思っても通学事情でままならず、まさに八方塞がり。

それでも、一つや二つ何かいい思い出は？と言われても、それはなくて、旧山手村からかなりかかった通学道中のヤンチャな思い出だけがひたすら頭に残る育ち盛りの世にもキビしい

その後はというと、取り立てるほどの思い出はなく、ごく普通のむしろ目立たない学園生活が続く、「青

11階建て本部ビル 文京区に7月新築



完成したばかりの医療法人社団同友会春日クリニックの本部ビル 東京都文京区

青陵は貴重な種まきの時期

物語でした。救いは子どもの時から持ち続けていた医者への志が一貫して衰えなかったこと。入試でさほど頑張った覚えもないけど運がよかつたのか、なんとか順天堂大学の門をくぐり、念願の医学の勉強をスタートできた時の喜びは今も忘れられない1シーンです。

予防医療に特化 国内有数健診機関

思いからやがて予防医学の実践に踏み切ることになりました。以後約40年、多くの人に支えられながら、いつの間にか現在10施設、職員700人、年間受診者数70万人と国内有数の健診機関になりました。今は医療法人社団同友会春日クリニックの経営と現役の医者という二足のわらじを履いて、「年の割によく働くね」と言われながら頑張っている毎日です。

平成27年7月には東京都文京区西片の東京ドーム球場近くに11階建ての本部ビルを新築、ますます意気軒昂で過ごしています。5月に後期高齢者の仲間入りをしたので、先般息子に理事長職を譲り組織は「安心ですが、大家家具やロッテのように家族間で騒動を起こさないよう、しばらくおとなしくしていようかと思っています。

何の変哲もなく過ごしたかに見えた青陵時代。実は私にとってかけがえない貴重な種まきの時期だったのでないか。ふと振り返るとそんな気がします。そう思うと、あの校舎、あの裏山がなんとも懐かしう、いずれまた訪ねてみたいと思っています。



あちこちで談笑の輪



参加してくれた現役の大学1年生

盛り上がる東京青陵会



力強く陵歌、校歌で締めくくった

近畿一円から82人が参加、盛り上がった近畿青陵会のメンバー



近畿青陵会 (平成27年5月24日、大阪・太閤園)

恩師がノーベル賞の話題

28期 松尾 健次

今年の近畿青陵会総会は、来賓の田中尚校長、同窓会本部の加川英郎会長（4期）、岡田展弘副会長（25期）、恩師の中山薫先生（日本史）、難波一衛先生（化学）をはじめ、総勢82人の参加をいただきました。担当幹事一同（18期、28期、38期）、ご出席くださった皆様に心よりお礼申し上げます。

会は田中博喜さん（28期）のテンポ良い司会で始まりました。開会の挨拶を近畿青陵会・大水勇会長（14期）が行い、総会を開会。会計報告を大月修会計幹事（19期）、監査報告を御手洗伸子会計監査（30期）よりいただき、いずれも承認されました。

懇親会の部では、まず田中校長よりご挨拶をいただき、昨年ラスカー賞を受賞された京大森和俊教授（28期）の母校への出張授業や阪大、京大の研究室への訪問見学、高い進学実績やスポーツ・文化クラブの活動実績などを報告いただき、頼もしく感じました。加川同窓会長からは、全会員へ「同窓会だより」を送付し、同期会やネットワーク交流を活発化させることに注力している一とご挨拶をいただきました。そして、岡田同窓会副会長のご発声による乾杯で宴がスタートしました。

歓談中には、恩師の中山先生から大変ウィットに富んだ近況報告と近著「温羅伝説」についての紹介を、難波先生からは、3年担任の教え子（森教授）がノーベル賞に手が届きそうなどころまできている喜びをお話いただきました。また、瑞宝小綬章を受章された小西忠明さん（7期）からもご挨拶をいただきました。

今年の企画として、在校生（放送部）制作の応援団女子をモチーフにした学園ビデオを上映、現役青陵女子パワーに目を見張りました。

その後、狩野昌美さん（28期）のフレンドリーな司会により、各テーブルからスピーチをいただき、現役大学生の就活の話や陵歌「嗚呼木枯」なども出て大いに盛り上がり、楽しい時間があっという間に過ぎました。

恒例の校歌斉唱、担当幹事謝辞、次期幹事紹介と続き、最後に、近畿青陵会・赤沢陽治副会長（18期）より閉会の挨拶をしてめでたくお開きとなりました。ではまた来年お会いしましょう！

* 渡辺 (旧姓池田) 椒子さん (4期)

「この会は創立メンバーの誘いで早い時期から毎年出席しています。クラブ活動？ 英語クラブというのがあったんですよ。専業主婦で2人の子どもを倉敷で育てました。今は大阪府内で長女（真優美さん、28期）一家と暮らし、ここ2、3年は長女と一緒にこの会に出席しています。娘と一緒に同じ校歌が歌えるのは喜びですよ。趣味の謡と仕舞を15年ほど続けています。80歳になりましたが、まだまだ元気に出席したいですね」

* 福田 (旧姓片岡) 京子さん (22期)

「結婚して関西にいたので近畿青陵会に長年参加、先輩方に可愛がってもらいました。会計監査を7、8年やりました。夫の定年後は矢掛町で暮らしていますが、近畿青陵会が懐かしく、大阪

寄稿

7期 小西 忠明



昭和31年に卒業して以来、はや59年の歳月が経過しました。現在、私は7期生の集い、近畿七陵会の幹事をしていきますが、この会は昭和59年に国語の「数本先生を囲む会」を開催したのが始まりで31年になります。当時、私は大阪府警淀川警察署の副署長で、管内にある十三の繁華街の会場を紹介して開いたのを覚えています。

誕生して31年 近畿七陵会

近畿七陵会は毎年新年会を開催、春と秋にはゴルフコンペをしています。当初は男性26人、女性31人が登録していましたが、喜寿を迎えた現在、すでに亡くなった方、病氣療養中の方などもあり参加者は年々減っています。学年全体の青陵七陵会は、倉敷、近畿、東京に設置され、それぞれ活発な活動を展開し

ています。これまでも還暦には北海道旅行、古稀には岡山の牛窓へ、喜寿には倉敷で「喜寿を祝う会」を実施してきました。ところで、私は平成27年春の叙勲で、囃らずも瑞宝小綬章の栄に浴しました。この受章は40年間の大阪府警での功績が認められたものと思います。これもひとえに多くの方々の長年にわたるご懇情、ご支援の賜物と感謝申し上げます。今後はこの榮譽に恥じることはないよう一層の精進を重ね、社会

貢献に努めたいと存じます。なお申し添えますと5年前、同期で東京七陵会の福本英三君（川崎市在住）も建設省（現国土交通省）総務審議官を最後に退官し、私より高位の瑞宝中綬章を受章されていることを報告させていただきました。□：小西さんは在学中ハンドボール部。大阪府警交通部参事官（警視長）を最後に退官しました。倉敷市出身、奈良県在住。

誕生して31年 近畿七陵会

今後はこの榮譽に恥じることはないよう一層の精進を重ね、社会

貢献に努めたいと存じます。なお申し添えますと5年前、同期で東京七陵会の福本英三君（川崎市在住）も建設省（現国土交通省）総務審議官を最後に退官し、私より高位の瑞宝中綬章を受章されていることを報告させていただきました。□：小西さんは在学中ハンドボール部。大阪府警交通部参事官（警視長）を最後に退官しました。倉敷市出身、奈良県在住。

参加者ひとこと

の空気を吸いに今も毎年参加しています。中学、高校ともに「帰宅部」だったのに、高校の保健体育の先生になったんですよ。岡山シーガルズの山口舞さん（大阪国際滝井）の授業を受け持ちました。2人の娘は結婚。趣味の草細工と手織りを楽しんでいます」

* 赤木賢吾さん (62期)

「大学の先輩、大水会長（14期）の誘いで初めて参加しました。学生（大阪大学外国語学部4年生）は私一人でした。青陵時代はバレーボール部にいましたが、勝ち進んだといういい思い出はありません。今、就活の最中。英語と中国語を武器に総合商社を目指していますが、まだいい手応えがなくて…。頑張るしかないです！」

学生3人、先輩の話に聞き入る

66期 上川原 千寛

平成27年3月に青陵高校を卒業し、倉敷から遠い九州大学へ進学し早くも半年が経過しました。当然ながら、九州青陵会に出席するのは今回が初めてです。

平成27年度九州青陵会は大先輩方に交じって学生が3人参加しました。会場に入ってもしばらくは緊張していましたが、先輩方の親しみやすい雰囲気であつという間に緊張がほぐれました。年の近い同じ大学に通う2人の先輩とは、部活や青陵祭のブロックで何かしらの縁があつたこともあり、非常に安心感を覚えました。

とは言え自分が参加者の中で一番若いだけに、先輩方の言葉一つ一つに重みを感じました。そのような言葉を伺うことのできる機会は、九州の地に引越すまで倉敷の地のみで生きてきた自分にとって非常に貴重な経験となりました。世を超えて対話をするということには、得られるもので満ち溢れています。

この九州青陵会に参加した理由の一つが、学生は会費無料という特典です。言ってしまうと、タダで貴重な経験ができるのです。これほど贅沢なものはないでしょう。

自己紹介を交えて近況報告をすると、経験豊富な先輩方から様々な言葉をいただきました。これらの言葉を自分なりに噛み砕き受け入れるわけですが、この言葉は後々の人生において結果として転機となりうるかもしれません。どこに人生のヒントが転がっていても不思議ではありません。

自分も先輩方のように後輩に立派な姿を見せるために、今後の長



元気な顔がそろつた九州青陵会（写真中央が筆者）

い人生を充実したものにしたいです。そのためにも、時間は作り出すものとは言え有限ですから、挑戦できる間は積極的に何事にも挑戦していきたいと思ひます。

最後になりましたが、会のお世話をしてくださつた皆様、出席された皆様に感謝申し上げます。

寄稿

20期 平野 善次郎

18歳の春、故郷岡山を出て46年がたちました。月日のたつのは早いものです。昭和48年に大学を卒業して就職。ほとんど東京・神田で過ごしました。妻の出身地が福岡で妻の父親が一人住まひだつたこともあり、福岡に転勤を希望し、平成18年4月に移り住みしました。

妻は地元ということで幼稚園から大学までたくさんの友達があります。中学、高校、大学の同窓会にいそいそと出かけていきます。そんな折、「君はいいね、たくさん友達がいて。俺には故郷がない」と発してしまいました。

これを聞いた妻は青陵高校に電話をしました。同窓会担当の船越先生に事情を説明したところ、「今回、九州青陵会が正式

九州青陵会出席は妻の英断

に支部として認められましたよ」とのこと。「事務局は青陵20期の加藤榮一さんと、あなたのご主人と同級生ですな」と言われ、連絡先を教えてくださいました。

加藤君の顔と名前に覚えがありません。卒業アルバムを引っ張り出して調べたところ、加藤君は理系で私は文系。高校時代はほとんど交流がありませんでした。こんなことが縁で九州青陵会に毎回出席させていただひています。

今回の同窓会では、1年生から連続4回出席してくれた九大生が東京の霞が関に就職が決まつたとの嬉しい報告もあり、全員拍手で祝福しました。

九州青陵会は東京、近畿よりも小ぶりの同窓会ですが、応援歌のように「♪青陵ここにあり、倉敷青陵、青陵、青陵」と元気がよく成長させたいと思ひています。

□…平野さんは九州青陵会副会長。岡山市出身、福岡市在住。

鳥越 信子さん(4期) 初期の水墨画



「松韻」は4期の鳥越信子さん(旧姓片岡、号信嵐)の作品です。昨年(平成26年)10月に突然、世界文化交流協会から『日光東照宮の平成27年用カレンダー』を作ります。鳥越さんの水墨画の作品を活用させていただきませんか?という思いがけない連絡が入りました。この作品そのものや風景の場所などすっかり忘れていたのでびっくりしましたが、いいお話なので戸惑いながらお受けしたんですよ。カレンダーは縦60センチ、横84センチの一枚物。左上に「終戦70年平和祈念 日光東照宮四百年式年大祭記念 芸術奉納」と銘打ち「鳥越信嵐」の名前入り。

作品の「松韻」は縦27センチ、横31センチ。写真サイズなら四つ切りです。松林をほぼ画面全体に躍動的な筆致で描いています。題名通り、松風の音がビュンビュン聞こえてきそうな情景です。「54歳で長年務めた幼稚園教諭を定

こぼれ話

緑を基調にした新聞紙の見開き(2ページ)よりひと回り大きいカレンダー。右上に水墨画の「松韻」が彩りを添えています。

平成27年用 日光東照宮カレンダーに



鳥越さんの水墨画(右上)が採用された日光東照宮奉納のカレンダー(平成27年用)

年退職したところ、町内のお寺で開かれていた水墨画教室に誘われたのがきっかけで水墨画を始めました。絵はもともと好きでした。まだ初心者なのに東京の美術館の作品募集に「松韻」を出品したところ、これがいきなり特選に選ばれたんですよ。そして忘れたころに今回の話でしょう」と驚いていました。カレンダーを作成した同窓会では日光東照宮に奉納。東照宮では境内で販売しました。鳥越さんにはカレンダー100枚が贈られ、友人や知人、同窓会でも配つて喜ばれたそうです。

初心者の特選作品がカレンダーに!どこまでも幸運な一品です。鳥越さんは在学中、美術部。今は絵手紙や短歌、茶道などを楽しんでます。倉敷市真備町出身、小田那矢掛町在住。

年齢や男女を問わずワインを愛飲する人が増えています。倉敷にも「ワインのおいしさを届けよう」と、シニアワインアドバイザーという高度な資格を持った専門店の経営者やスタッフが青陵卒業生にいます。平成27年6月10日、青陵高校創立80周年記念会館で、倉敷を代表する専門店のお二人に出席してもらい、経営の工夫やワインの楽しみ方、取って置きの話を披露してもらいました。題して「ワインを語ろう」。

ワインを語ろう！ シニアアドバイザー対談

出席者

ヴァン・ルパン倉敷
石原 延秋 さん (27期)
(倉敷市中央)

ワインショップしんじ
真治佐知子 さん (44期)
(倉敷市昭和)

真治 石原さん、こんにちは。今日はよろしくお願ひします。同窓会日より編集室は、父(憲之さん)=16期へへご依頼くださったんですが、「お前が行った方がいいだろう」と、引っ張り出されてしまいました(笑い)。

石原 こんにちは。お久しぶり。お父さんは、私にとってワインの師匠ですから、対談を緊張しつつ心待ちにしていたんですが、それを察してお心遣いでしょうか。次世代に席を譲るあたり、さすがです。

お互いに酒店の三代目 真治さん 石原さん

真治 うちの酒店を始めた祖母、父母、そして私と弟で三代目です。父の代からワイン中心の品揃えに移行していき、今は日本酒と焼酎を含めた三本柱に特化しています。私は専門学校を出て別の仕事をした後、23歳のころ家業へ。ワイン買い付けに同行した時、海外の蔵元でいろいろな造り手に出会って興味がいつべんに膨らみ、そこからすんなりこの道に入ったんですよ。

石原 酒店の三代目っていうのはうちも同じだけど、私は廃業が継続か迷った時があったんですよ。でも根っからの食いしん坊で、「おいしい！」って言葉をお客さまと共有できる喜びにだんだんとのめりこんでいきましたね、思い切って16年前にワイン専門店に特化したんです。お父さんのご指導がなければ進めなかった道だと感謝しています。

ワインバーを併設してます 真治さん

真治 そうなんですか。石原さんにそこまで言わせるなんて、父もなかなかやりますねえ(笑い)。うちは、石原さんが今のお店を建てられたのと同じ1999年にワインセラーを拡張して今の形態に改装したんですが、ネットショッピングが増えてきたあそこがちょうど何かに特化する転換期でしたね。今は店の隣の建物で週の後半(木~土曜)の夜だけワインバーを開くようになりました。

石原 真治さんのワインバー、レストラン風のおしゃれな外観で粋ですよ。ワイン屋が隣接してるんだから最強だし(笑い)。

真治 幅広い年齢層の方がお見えになるんですよ。料理やワインによりますが、居酒屋さんぐらいのご予算でお気軽にどうぞって感じ。約1,200種類のワインをそろえているショップも、ワインバーも今はシニアソムリエの弟と二人で切り盛りしています。(日本ソムリエ協会の)認定試験は知識と技術・テイasting(試飲)がありますのでどちらにしても少々難しいかもしれないですね。私が受けた当時は100問100分。ワイン名も料理名も原語。考える暇がない(笑い)。でも



ワイン談義で盛り上がる石原さん(右)と真治さん

味覚大国・日本だけに、ソムリエの人数は世界で日本がトップなんですよ。

高水準セラーが特徴です 石原さん

石原 そうですよ。私も、受験の時はかなり集中して勉強しました。うちも妻がソムリエールの資格を持っていて、二人でおいしいワインを選んでいきます。フランス、イタリア、ドイツなど世界のワインを中心に、国産品も合わせて2,200種類ほどの品揃えでしょうか。大阪には「がんこおやじ」って、焼酎の名前みたいな世界レベルのワインがあったり、県内でも「TETTA」はなかなか有望ですよ。店の特徴はなんといっても2階のワインセラーです。世界最高水準の貯蔵・熟成設備で、ベストコンディションでおいしさを提供できると自負しています。

真治 岡山はセレクションや管理面も含めてワインショップとしてのレベルがとても高いと専門家や生産者の方々から評価いただいていますものね。5月でしたか、地元テレビのロケを拝見しました。

石原 お恥ずかしい(笑い)。倉敷という土地柄もあって、グルメな芸能人や番組のロケで、お互い取り上げられることも多いですよ。でも、もっと緊張したのは、2月末でしたか、秋篠宮様と佳子様がお来倉された際、ワインを依頼されたことです。とても名誉なことですが、さすがに今までで最もプレッシャーを受けましたね。

おいしいワイン楽しく飲んで 真治さん 石原さん

真治 この道に入る心構えとしてはおいしいワインを飲み、おいしい料理を食べてワインのある生活を楽しんでいただきたい、という気持ちがあればいいんじゃないですか。ワインの愛飲家がもっともって増えてお料理と一緒に堪能していただければ食文化の幅が広がると思いますよ。

石原 同感です。お客さまに「おいしい」と言っていたきたい、そしてそのおいしさを共有したいという気持ちがあればやっていけますよね。もちろん、プロとしての日々の努力、精進は欠かせないでしょう。倉敷はワインと食に対する意識が高い方が多いですから厳しくもありやりがいもあります。これからもワイン文化充実とワインをよりおいしく楽しんでいただけるようお互いしっかり励みましょう。

- …在学中、石原さんはハンドボール部、真治さんは新体操部でインターハイに出場しました。
- …真治さんの母陽子さんは21期です。

女性の社会進出で消費量高まる

主としてブドウの果汁を発酵させたアルコール飲料。ぶどう酒。発祥地は中東だが、年産505万キロリットル(2013年)のイタリアを筆頭にフランス、スペインが3大ワイン王国。アメリカやオセアニアなど世界中で生産され、ヨーロッパでは1000年以上のワイン文化を誇る。

推定数十万種類といわれ毎年十萬種のペースで増え続けている。色は赤、白、ロゼ(ピンク)。品質が変化しやすく、保存は暗く震動のない地下室が良いとされ、温度・湿度管理が大切。

日本では明治時代に生産が始まったが日本酒の存在が大きき、ワインの需要が高まったのは1980年代。生産量は11万キロリットル(2013年)で、そのうち国産ブドウで作った純粋国産ワインは2%。県別の生産トップは神奈川県、岡山県は4位。全国にワイナリーは約100あり、県内のワイナリーはふなほ(倉敷市)や是里(赤磐市)など5カ所。日本人1人当たりの年間消費量は2リットルだが、嗜好の多様化や女性の社会進出で消費量は高まっている(インターネットより)

醤油や窯元、呉服…。全国有数の産業観光都市として発展する倉敷には大正以前に創業した老舗がたくさんあり、地域経済や観光面の活性化に多大な貢献をしています。倉敷市は平成24年度から老舗企業を顕彰、感謝状を贈

呈する事業に取り組んでいます。この中には青陵同窓生が支えている老舗があります。倉敷の歴史を彩る老舗文化。感謝状を受けた老舗企業の中から同窓生の活躍ぶり、経営姿勢や苦労話を今後、創業順に紹介していきます。

「倉敷の老舗」を訪ねて①

商品の前で談笑するとら醤油の三宅社長（左）と岡監査役



「会社組織にした四代目三宅次平の掲げた社は『和情熱実践』をしっかりと胸に刻み、自信をもってお勧めできる高品質の商品づくりに邁進しています。それには社員のワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）に留意し、会社の能率向上に努めています」と前置きして、「創業以来の伝統ですが、原料の大豆や小麦、塩、黄ニラなどをできるだけ県内産で買い、地域と連携して一緒に成長してきました。最近では加工品の開発にも力を入れています」と、熱く語るの創業155年の老舗を背負う七代目社長三宅正記さんです。

最近開発した加工品は、まず岡山の高級食材・黄ニラを利用した日本初の「黄ニラ醤油」

万延元年創業 とら醤油(株)
 三宅正記 社長 (37期)
 岡 吉夫 監査役 (10期) =倉敷市酒津=

「会社組織にした四代目三宅次平の掲げた社は『和情熱実践』をしっかりと胸に刻み、自信をもってお勧めできる高品質の商品づくりに邁進しています。それには社員のワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の両立）に留意し、会社の能率向上に努めています」と前置きして、「創業以来の伝統ですが、原料の大豆や小麦、塩、黄ニラなどをできるだけ県内産で買い、地域と連携して一緒に成長してきました。最近では加工品の開発にも力を入れています」と、熱く語るの創業155年の老舗を背負う七代目社長三宅正記さんです。

かつて皇室に献上、今や名産品



四代目三宅次平（右）と娘婿の会長都志与一の胸像

かつて皇室に献上、お買い上げという栄誉もあり、今や倉敷の名産品です。監査役を務める岡吉夫さんは総合商社トーマン（現豊田通商）の出身。鉄鋼をはじめ機械や合成樹脂などを長年扱った営業のベテランでした。定年退職後に請

わけて入社して5年になります。取締役管理部長から現在は監査役。高梁川と小田川の合流地点、酒津浄水場のすぐ近くの現在地で創業。水量も水質も国内屈指という立地条件に恵まれています。三宅醤油店、三宅醤油株式会社から昭和25年、現社名に変更。社名の「とら」は次平のころからの商品名です。「吉備津彦神社で『自分の裏干支にしたいです』と言われ『とら』を採用したようです」と正記さん。倉敷では二番目に古い醤油醸造元。敷地内の一角には老舗を思わせる胸像が二基並んでいます。四代目次平と会長都志与一（次平の娘婿）。先祖が見守る中、工場見学のほか、正記さん自ら「しょう油ものづくり博士」として県内の小学校の授業に出向くなど、老舗を守る気概にあふれていました。□：裏干支は円形に並べた十二支の対角線上（裏）の干支。開運につながるという言い伝えがあります。三宅次平さんの干支は申となります。

明治2年創業 (株)はしまや呉服店

楠戸収一郎 社長 (16期) =倉敷市東町=



年季の入ったのれんのそばに立つはしまや呉服店の楠戸社長

創業以来の社訓「顧客は親族」

美観地区の東端に近い東町。いかにも風情のある町屋造りの大店があります。入り口に、白で〇に「と」の字を染め抜いた大きなのれんが風になびいています。

市内では数少なくなった倉敷で一昔古い着物の店、はしまや呉服店です。創業から間もなく、5年の歳月をかけて建てられ築138年になる店舗兼住宅。通りに面した本宅（楠戸家住宅）は市指定の重要文化財、裏にある土蔵2棟は東大安田講堂などとともに岡山県内でイの一番に国の登録有形文化財に指定された由緒ある建物です。中庭の樹齢300年近いサツキは毎年6月に一般公開しています。江戸時代の藍染業から明治2年、楠戸徳吉さんが呉服店を創業。のれんの「と」は徳吉さんの「と」です。屋

号の「はしまや」の由来は「東隣の『羽島』とは関係ないようです。羽島に楠戸姓は多いですが親戚がありません」と収一郎さん。代々京呉服専門。五代目の収一郎さんが社長を継いで20年。「売り先は親族のごとくせよ」「高利は魔」という創業以来の社訓、顧客第一主義を貫いています。「呉服の需要は減りました。特に50代以下の人は洋服で育ち生活してきましたから、残念ながら着物のことをほとんど知らないんですよ。デパートと昔からのおなじみさんを訪問販売しています。振り袖や訪問着を中心に色留め袖、黒留袖などの注文があります」と言います。本宅で開く毎年2月と9月の展示会は恒例行事となっています。

老舗の維持にも努めます。土蔵でギャラリー&カフェ「夢空間はしまや」、本宅の向かいで息子さんがイタリア料理「トラットリア」を経営。観光客が次々訪れにぎわっています。老舗は文化サロンでもあり、サロンのほか、フェラーリ三世、永六輔、祖父の民芸好きからバーナー・ド・リーチ、柳宗悦、河井寛次郎ら多くの著名人が風格のある老舗ののれんをくぐりました。映画のロケもあり、「春琴抄」が原作の「讃歌」（新藤兼人監督）に本宅が登場しました。老舗の中、老舗を見学するだけでも優雅な気分になれます。□：楠戸さんは中学から大学までサークルでトロンボーンを演奏していました。



岡山県で最初に国の登録有形文化財に指定された本宅裏の旧土蔵

東大・京大等
難関国立
大学に

40人

地元
岡山大学に

73人

全国の
国公立
大学に

236人

2015年入試合格実績

亦
説
ば
し
か
ら
ず
や

今、青陵高校の進路指導は大きな転換期を迎えています。長い間掲げてきた現役主義を見直し、「夢や理想をあきらめない強くたくましい生徒」を育てる方針を立てました。近年、進学実績が目立れば地域からの期待も大きくなっている本校は、国や世界を動かす人材を育てることを意識した指導を行っていく必要があると考えたからです。今の学力で行ける大学を探すのではなく、行きたい大学に届く学力を手に入れる努力をする生徒を育てたいと思います。将来の職業や生き方を思い描き、その実現のために学習する意欲と態度を身に付けることが大切なのであり、高い志こそが質の高い学力を育むのだと考えます。

そういう意味で、これまでのきめ細やかで丁寧な進路指導を堅持しつつ、時代の流れや状況の変化に応じた新たな取り組みも展開しています。その中で、今年初めて実施した3つの行事を紹介します。

現役主義から志望第一主義へ 東大ツアーや岡大の学部説明会

まず3月に広島県立尾道北高校、香川県立観音寺第一高校と合同で東大ツアーを実施しました。総勢40人（本校から19人）が予備校の授業を受け、東大を訪問して教授の講義を聴いたり、研究室を訪ねたりしました。県を越えて交流する機会をもった生徒は、互いに大きな刺激を受けたようです。



刺激を受けた3校合同東大ツアー＝平成27年3月、赤門前

9月末の土日には他県の校長先生を招き、進路指導講演会を開きました。3年生対象に150人、1・2年生対象に70人、全学年保護者対象に200人の参加があり、生徒には未来を切り拓くための指針を、保護者には子どもを支えるための方策を授けていただきました。

また11月中旬に、岡山大学の全学部から13人の教授を招いて学部学科説明会を行いました。文理選択を終えた1年生が関心のある2つの学部の説明を聞き、学問領域や研究内容の違いを知ることを目的にしたもので、具体的な志望を固めていくための参考になったことと思います。

このように青陵高校が守るべき伝統と踏み出すべき新しい第一歩を考えながら、日々の学習指導・進路指導に取り組んでいます。同窓生の皆さまには、今後とも御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

難関国公立大学

北海道大	1
東北大	1
東京大	2
東京工業大	1
名古屋大	4
京都市大	6
大阪大	11
神戸大	3
九州大	11
難関国公立 合計	40

国公立大学

筑波大	2
お茶の水女子大	1
横浜国立大	1
静岡大	1
京都工芸繊維大	1
奈良女子大	1
鳥取大	5
島根大	6
岡山大	73
広島大	15
山口大	4
徳島大	9
香川大	15
愛媛大	15
高知大	3
九州工大	1
京都府立大	1
大阪府立大	5
岡山県立大	9
その他の大学	68
国公立 合計	236

国公立医歯薬

医学部・医学科	3
歯学部	1
薬学部	4
国公立医歯薬 合計	8

岡山大学 学部別

法学部	9
経済学部	5
文学部	6
教育学部	17
理学部	3
工学部	15
環境理工学部	5
農学部	5
医学部医学科	1
医学部保健学科	4
薬学部	3
岡山大学 合計	73

主な私立大学

青山学院大	3
上智大	2
津田塾大	3
東京農大	5
東京理大	8
明治大	4
慶應義塾大	3
早稲田大	4
同志社大	16
立命館大	48
関西大	31
近畿大	18
関西学院大	28
岡山理大	12
川崎医療福祉大	24
清心女子大	62

主な大学の合格状況



テレビせとうち（テレビ東京系列）にて毎週木曜夜7時58分～放送中の「木曜8時のコンサート」に出演

10月22日夜、テレビ東京系列で軽やかに歌う新沼謙治の歌声とともに全国放映されました。画面に「合唱」のテロップが入り、青陵の名を全国に発信しました。

♪爽やかな朝靄の中を…。平成27年、テレビ番組で東日本震災の復興支援歌「ふるさと」は今もかわらずに歌う新沼謙治（岩手県出身）のバックコーラスに、青陵高校コーラス部が賛助出演、見事な美しいハーモニーを披露し、公開収録に訪れた岡山県内外の約1,700人の聴衆の感動を呼びました。

同コーラス部は倉敷で公開収録が行われたテレビせとうち（本社・岡山市）の開局30周年を記念する音楽番組「木曜8時のコンサート」（テレビ東京系列）に、キー局のテレビ東京から直接出演を依頼されたものです。

コーラス部は平成12年創部のサークルです。出場したのは1、2年生男女全部員13人。顧問の金井庸記教諭の指導により夏休み中から1カ月がかりで練習を積みましました。9月10日に倉敷市民会館で行われた公開収録に参加、無事に役割を果たしました。

こぼれ話 コーラス部、颯爽とTV出演

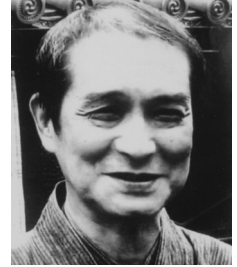
新沼謙治のバックで歌う

戦

大森さんの貴重な世界の戦跡写真に見入る鑑賞者



後



ありし日の大森久雄さん＝写真展の写真より

高校教員の傍ら26年にわたり世界の戦跡の写真
を丹念に撮り続け、平成
26年11月に亡くなった郷土史家・大森久雄さん（9期）＝倉敷

海外8カ国、選りすぐり35点

市本町＝のライフワークの遺作展「平和を求めて、大森久雄カメラの記憶」が同27年8月に倉敷公民館で開かれ、遺作を通して、反戦平和を貫いた大森さんの後世へのメッセージをあらためてかみしめました。

会場には作務衣姿で街頭に立ちマイクで平和を訴える、ありし日の大森さん（享年75歳）の写真に続いて、中国を中心にドイツやポーランドなど8カ国、42回に及ぶ戦跡取材行の選りすぐりの産物35点を一堂に展示しました。

この中には、張作霖の「爆殺の場」や関東軍防疫給水部跡の「731の残骸」、アウシュヴィッツのガス室へ続く「死への引込線」など世界史の教科書に登場する歴史の「負の遺産」を的確にとらえた写真ばかり。一枚一枚に大森さんの魂と信念が込められた貴重なアングルです。初日から多くの鑑賞者が訪れ、業績をしのびながら戦争の理不尽さを胸に刻んでいました。

会場にかけつけた妻保子さんは「夫は『歴史の現

地に立って見て触れる』という信念でカメラを2、3台、大量のフィルム、それにスケッチブックを持って海外へ35回出かけました。根っからの反戦平和論者でしたねえ」と、作品を見ながら静かに夫の生き方を振り返っていました。

大森さんの写真展開催は3回目。今回は集大成の遺作展として倉敷9条の会が企画、妻保子さんらを交え過去の膨大な写真の中から出品作を選びました。

大森さんは青陵時代は剣道部と演劇部で活動。愛媛大学を卒業後、中学と高校の社会科教諭（日本史）として36年勤務しました。岡山県歴史教育者協議会会長を務め、倉敷9条の会の結成に参画し代表世話人になりました。

郷土史家として「新修倉敷市史」をはじめ多くの郷土史編纂に携わり、著書や翻訳書も9冊あります。

同27年11月の一周忌には、関係者が14日に「大森久雄さんを偲ぶつどい」を倉敷アイビススクエアで開き、53人が出席。国際交流や平和運動に精力的に取り組んだ故人の遺徳をしのびました。

倉敷の郷土史家
故大森久雄さん（9期）遺作

戦跡写真展

倉敷紡績へ倉女36期生ら

「岡山から『沖縄戦必勝』」「クラボウ女子挺身隊員ら」の見出しで、終戦直前の倉敷紡績の社内報（コピー）を保存しているという山陽新聞の記事が平成27年6月22日付で掲載されました。

記事中、「倉敷高女出身で東京在住の女性」という記述があり、この女性の具体的な名前を求めて、記事の取材を受けた倉敷市の清心女子中・高校の山内宏之教諭＝福山市＝を訪ね、「この女性は名前の公表を控えていますか？」と尋ねると、「いや、私がかつて発表した戦争を考える集まりレポート（平成12年）に名前入りで書きました。公表しても大丈夫ですよ」との返事をもらい、「同窓会だより」用に取材を開始しました。

山内さんは高校で日本史と現代社会を教える傍ら、昭和の十五年戦争に興味を持ち資料収集を続けています。

この女性は倉敷紡績へ学徒動員されていた岡田清子さん（倉女36期）＝東京都府中市＝でした。社内報を保存していたのは岡田



倉敷高女の学徒動員時代の倉敷紡績社内報

学徒動員

山内さんのまとめた集まりレポート「沖縄と倉敷をつなぐ女性たち」（13頁）の第3章には、学徒動員「県立倉敷高等女学校の例」として3ページにわたり、作業内容や手記の記述があります。引用した手記には「尾翼の一部を作るため鉄の塊をグラインダーにかけるが、鉄粉が飛び散り猛烈な勢いで目に飛び込み眼球に刺さる。そのたびに医務室で鉄粉を取り出してもらう。ゴーグルのようなものは支給されなかった」と、極めて過酷な作業状況が

海軍機の翼づくりで目に鉄粉

さんと同じ現場で働いた岡山一中（現岡山朝日高）の生徒です。

社内報は終戦直前の昭和20年5月号で、「同心」と題した8ページ建て。岡田さんら倉敷高女は岡山一中など県内4校の生徒と一緒に動員され、海軍機の翼づくりに従事しました。動員学徒のほか、沖縄から来た女子挺身隊とも一緒に働き交流しました。

女子挺身隊の郷里・沖縄には米軍が上陸、凄惨な地上戦の最中の社内報。社内で沖縄救援総決起大会が開かれ「全倉工人よ 沖縄救援に立て」の見出しで「沖縄から敵を追い払う力をこの工場から盛り上げよう」「勝敗の鍵は翼の補給」と、沖縄戦勝利に向けた全社一丸の雰囲気伝わります。

伝わってきます。よく失明しなかったものだと思います。

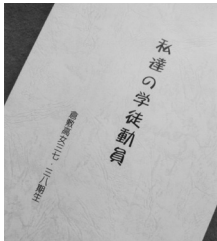
この手記は同じく学徒動員された岡田さんの1年後輩、故小出（旧姓金屋）貞代さん（倉女37期）が書いたものです。

小出さんはこの手記とは別に、学徒動員を経験した倉女37、38期生有志で回顧文集「私達の学徒動員」（62頁、平成12年刊）を刊行しました。小出さんら26人が「青春の一頁」「戦争の時代」などと題し、勉強意欲を絶ち切れぬに奉仕する終戦直前の厳しい生活環境をあぶり出しています。

回顧文集は山内さんに提供。山内さんが資料として保存しています。

今年は戦後70年。政府は長年堅持してきた平和憲法の解釈を変更、歴史保障関連法案を成立させた大きな変革の節目の年に、奇しくも戦時中に遭った倉敷高女の苦難の一面面を物語る貴重な資料が公表されたわけです。

福山の研究者が資料保存



倉敷高女37、38期生の学徒動員時代の回顧文集「私達の学徒動員」

70

年

樹木の名前を知りたい人は気軽にクリックして!

インターネットの全国初のサイト「葉と枝による樹木検索図鑑」を作成、毎日多くの樹木愛好家に活用されています。

作成したのは林野庁関西森林育種場(現森林総合研究所林育種センター関西育種場) = 岡山県勝央町 = の元場長荒木武夫さん(5期)です。得意なパソコン技術を生かして退職後の平成17(2005)年に開始してからもう10年になります。

アクセスは毎日600件前後のハイペース。同27年11月現在、サイト開始以来42万件を超えています。簡単で画期的な検索図鑑だけに大変な人気です。サイトは樹木に興味のある人をはじめ、大学の研究室や小学生の夏休み自由研究など幅広く利用されていると思われます。

アクセスの順序は一。調べようと思う樹木の葉の付いた枝を手元に置いて検索開始。まず「葉と枝」と入力すると、「葉と枝による樹木検索図鑑」のフロントページが出てきます。ここから3つの検索方法に分かれます。

①基本検索法 フロントページの葉(カッタ)の写真をクリックします。例示写真と実物の枝葉を見比べながら該当項目を順次クリック、最後に一覧図で樹木を探り当てると解説文と拡大写真に到達します。



ネットの「葉と枝による樹木検索図鑑」のフロントページ

5年後完成目指す「樹木検索図鑑」サイト作成

②分類別検索法 ある程度分類知識のある人のために用意しています。フロントページのタイトル「葉と枝による樹木検索図鑑」のすぐ下にある「分類別検索」ボタンをクリックすると、分類別の一覧図が出てきます。以降は基本検索法と同じです。

③種名別検索法 樹木の名前がおおよそ分かっている場合、「種名別検索」ボタンをクリック、種名別検索表で樹木の名前をクリックすれば解説文と拡大写真に一気に到達します。その他、「図鑑の使い方」「類似種の見分け方」などもあり、系統的に分類、整理された見やすいサイトです。

サイトの作成には、松山東雲短大名誉教授・松井宏光(植物学)、倉敷市立自然史博物館学芸員・狩山俊悟の両氏ら専門家をはじめ多くの方々の指導、協力を仰いだ信頼のおける内容です。

アクセス42万件超 大人気

荒木さんは北海道大学農学部林学科から農林省(現農水省)林野庁に入り31年務めた林野行政の専門家です。趣味の登山も百名山のうち27座を制覇していますが、ある時、登山中に仲間

に樹木の名前を聞かれて、うまく答えられなかったのが検索図鑑作成のきっかけとなりました。荒木さんは「現在573種を掲載済みで1,000種を目標にしています。図鑑本(400種程度)のレベルは超えています。完成にはあと5年かかるでしょう。私のライフワークですよ」と元気に語ってくれました。

パソコンや樹木に詳しくなくても大丈夫です。皆さんも一度アクセスしてみてください。□…荒木さんは現在、岡山県森林ガイド、パソコン指導のボランティアをしています。倉敷市在住。



柔道部 トリオ 荒木

武夫さん(5期)

「陵歌」余聞

進学先の北大で流行させる

作曲 出原弘之さん / 編曲 仁科喜佐男さん

♪ヴィッカスホールの玄かんに咲きまわった凌しよう花…。慶応大学に学んだ佐藤春夫の歌「酒、歌、煙草、また女」三田の学生時代を唄へる歌に曲が付いて北大恵迪寮で愛唱歌として歌われ、のちに東京でも歌声が聞かれましたが、慶応のキャンパスには届かなかったという数奇な運命をたどった青陵がらみの青春の歌があります。



柔道部トリオの(左から)仁科、出原、荒木の各氏=昭和29年、倉敷駅で

この歌のタイトルは、春夫の歌と同名の「酒、歌、煙草、また女」。実はこの青春の歌の作曲者が出原弘之、編曲が仁科喜佐男、北大へ伝えたのが恵迪寮に入寮した荒木武夫の5期の柔道部トリオです。3人は期せずして佐藤文学の大ファンでした。

仁科にはすでに歌づくりの実績があり、今も歌い継がれる青陵名物「陵歌」生みの親です。在学中に第三高等学校(今の京都大学)の寮歌にならって「桜花爛漫」を作詞・作曲。のちに「陵歌」と名付けられ、不朽の第1作となりました。

3人はそろって昭和29年春、慶応大、横浜市大、北

佐藤春夫の歌「酒、歌…」にメロディー

大に進学。慶応ボーイになった出原が「酒…」にメロディーを付け、仁科がアレンジ。夏休みで2人と顔を合わせた荒木が北大恵迪寮へ持ち帰り全寮コンパで披露しました。これをきっかけに「北大寮歌」とともに愛唱され、大ブレイクしました。

しかし流行は長くは続かず、昭和30年代前半までのわずか数年、北大のみで歌われ、慶応大や横浜市大で普及することはありませんでした。60年安保後の世代の断絶、寮生の絆の希薄化などが原因と考えられます。

自然消滅したかに見えましたが、今から10年ほど前、東京の居酒屋で歌われていたのを偶然耳にした「三田文学」編集長が作曲から50年ぶりに歌の源流探しに奔走。たどり着いたのが仁科ら青陵柔道部トリオでした。

三田一倉敷一札幌一東京と日本列島を駆け巡った青春の歌の一人旅。青陵柔道部トリオが関わった春夫にちなむ珍しい歌の軌跡は、平成21(2009)年、三田文学に随想としてよみがえったのでした。「えっ、あの歌は忘れられてなかったの?!」一。ご健在の仁科、荒木が驚いたのは言うまでもありませんでした。=文中敬称略。



5期生の柔道部トリオが歌にして北大で普及させた佐藤春夫の「酒、歌…」のCD

□…参考文獻「三田文学」2009年春季号随想(前島一淑)

□…三田文学と「酒…」の音源(CD)は青陵高校図書館に保存してあります。

会員ミ二点描 (平成27年)

【受賞・受章】

- * 京都大学大学院教授の**森和俊さん(28期)**が1月、山陽新聞賞(学術功労)を。細胞の中の「小胞体」でタンパク質が正しく機能する仕組み「小胞体ストレス応答」を解明しました。
- * 女優**旺なつきさん(26期)**が1月、第49回紀伊国屋演劇賞を。往年の名女優マレーネ・ディートリヒの晩年の数時間を描いた「マレーネ」の演技が評価されました。タカラジェンヌから女優になって30年目です。
- * **岡良夫さん(14期)**が5月、春の叙勲で旭日小綬章を。6期24年、倉敷市議会議員(うち議長2年)を務めました。/**藤田順治さん(2期)**が11月、秋の叙勲で瑞宝中綬章を。プラズマ研究の進展に貢献しました。名古屋大学名誉教授/**窪津誠さん(15期)**が瑞宝小綬章を。元岡山県政策審議監。地方振興局の設置を推進しました。

【就任】

- * **藤原彰夫さん(18期)**が1月、倉敷野鳥の会会長に。会員は小中学生から70代まで約35人。野鳥観察や自然学習会、巣箱づくりなどの活動をしています。任期は2年。元岡山県林業試験場長。
- * **和気誠さん(18期)**が4月、岡山県ラグビー協会理事長に。任期は1年。広島大学ラグビー部出身で県立高松農高にラグビー部を創設。県立玉野光南高校長、県高校体育連盟会長を歴任しました。
- * **田中尚校長(同窓会名誉会長)**が4月、岡山県高校長協会副会長に。任期は1年。
- * **河合司二さん(在学途中で転校)**が10月、近畿おかやま会会長に副会長から昇格。任期は2年。大和ハウス工業副社長を務め、現在は顧問です。倉敷市出身。

【当選】

- * 岡山県議会議員選挙が4月に行われ、**山田(旧姓貝原)総一郎さん(24期)**、**渡辺英気さん(26期)**がいずれも6期目の当選を果たしました。ご活躍をお祈りします。
- * 青陵OB同士の無所属新人対決となった岡山県早島町長選挙が8月に行われ、元町福祉課長**中川真寿男さん(24期)**が、元町議**八木茂さん(22期)**を小差で破り初陣を飾りました。中川さんは「町の個性と魅力を増やしてモノと心の豊かさを実現し、幸福を実感できる町にしたい」と抱負を述べました。

【講演】

- * 山陽新聞社報道部記者**大橋洋平さん(45期)**が10月、倉敷で家庭教育推進のための「スマホ時代の子どもたち」と題して。小中学生の保護者ら約170人が聴きました。

【陶芸展】

- * 酒津焼の6代目を継承した**岡本研作さん(26期)**が9月、天満屋倉敷店で継承記念展を。素朴な美を受け継ぎ、自らの特徴も追求する茶陶や花器、食器など約120点を展示、多くの陶芸ファンでにぎわいました。

【訃報】

- * 同窓会副会長の**佐藤武平さん(5期)**が2月、理事の**青木捷一さん(14期)**が平成26年11月に亡くなりました。長年、同窓会のお世話をさせていただきました。

【お知らせ】

- * 青陵高校の同窓会名簿が東京方面で出回っています。名簿業者からマンションやソーラー業者など各種企業に渡っているもようです。詐欺など犯罪につながりますので同窓会名簿の保存・管理を厳重にお願いします。〈編集室〉

【お断り】

6月に取材をさせていただいた「倉敷の老舗 酒津焼窯元」(岡本研作さん、和明さん)の連載記事は、紙面の都合により次号掲載となります。ご了承ください。

岡山県立倉敷青陵高等学校「同窓会だより 青陵」第47号

発行 岡山県立倉敷青陵高等学校同窓会

[事務局] 〒710-0043 倉敷市羽島1046-2

TEL:086-422-8001 FAX:086-422-8004

e-mail:seiry05@pref.okayama.jp

URL:http://www.seiry.okayama-c.ed.jp

発行人 加川英郎(4期)／編集委員 佐藤豊行(18期) 船越勝(28期) 三浦由嵩(サラト)

印刷・デザイン 株式会社サラト 〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172

お願い 同期会や「会員ミ二点描」などの情報をお寄せください。

同期会開きました

8期

平成27年5月21日
倉敷アイビースクエア・
フローラルコート
110人参加

開催予定

38期

平成28年1月2日
午後5時～
ホテルグランヴィア岡山

今後の予定

本部総会

平成28年8月7日(日)
午前10時から
倉敷アイビースクエア
〈当番期〉9と0の付く期と
本年度の卒業生(66期)。

東京青陵会

平成28年6月25日(土)
午後3時から(変更の可能性あり)
東京・明治記念館

近畿青陵会

平成28年5月22日(日)
正午から
大阪・太閤園

九州青陵会

平成28年10月1日(土)
午後1時から
福岡・西鉄グランドホテル

編集後記

◎：所用で上京した折、タイミングが合ったので東京青陵会に取材を兼ねて飛び入り参加しました。2期の大先輩から今卒業して東京の大学へ入学したばかりの現役学生まで120人の同窓生が集い、会場は熱気に包まれました。日本の中核で活躍する方々を見てみると伝統を誇る青陵の底力を感じます。「同窓会だよりは情報量が多く読み応えがある」とのコメントをもらい、意を強くしました。

◎：同窓会だよりを住所判明の全会員約2万5千人に配布を始めて5年目になります。年1回発行ではありませんがじわり浸透、絆を深めるのに役に立っています。発行協力金ですが、郵便局のほかコンビニから振り込めるように手続きしました。よろしくお祈りします。(S)

京大の森和俊研究室を訪問した青陵高生（前列右から5人目が森教授）



28期 森和俊教授リポート

平成27年5月23日、青陵高校生のラボ（研究室）訪問の日です。

生徒46人（2、3年生）と石田教頭ら先生8人が青陵高校を午前6時半にバスで（京大へ向け）出発。（到着後）午前中、5班に分かれ私（森教授）や（スタッフの）助教、大学院生、青陵OGの宮田さんら5人の案内で学内の時計台、グラウンド、体育館、博物館などを見学した後、生協で昼食。

午後は5人が分担して、共焦点顕微鏡を使った培養細胞の観察、PCRとDNAシーケンサーの説明、メダカシステムの説明、蛍光顕微鏡で光るメダカの観察をしてもらいました。

私は遺伝子組み換えでは滅菌が重要なこと（乾熱滅菌とオートクレーブの説明、ピペットでピペットを取り出すこと）、純水を使うこと、遺伝子組み換えではあわ粒の世界なのでピペットマンとエッペンドルフチューブを使うこと、電気をかけてDNA、RNA、タンパク質を大ききで分けてからいろんな解析をすること、組み替えられた遺伝子が入った大腸菌は寒天の上でコロニー（集落）を作ることなどを説明しました。皆さんには5カ所を25分ずつ駆け足で回ってもらいました。

教室では、底部が大理石でずっしりと重いラスカー賞（2014年受賞）を手を持ってもらいました。

皆さん、特に女子生徒さんはとても元気でした。楽しく、あっという間に時間が過ぎ、午後3時半ごろには倉敷に向けて出発しました。

それぞれの目標に向かって歩んでください。

青陵での講演（5月11日）の生徒の感想文を先生が持つ

てきてくれました。その67人にはしっかりとメッセージが届いていて、とてもうれしく思いました。

□…京大大学院森研究室のブログを基に構成しました。

□…共焦点顕微鏡：焦点距離がばらばらな対象物でも確実な像が得られる顕微鏡／PCR：ごく少量のDNA（デオキシリボ核酸）を大量に作る手法／シーケンサー：順番（シーケンス）を制御するコントローラー

／蛍光顕微鏡：蛍光・燐光現象を観察することによって対象物を観察する顕微鏡／オートクレーブ：内部を高圧にできる耐圧性の装置／ピペット：少量の液体を移動、計量する実験器具でスポイトに似ている／ピペットマン：ピペット製造会社の商標／エッペンドルフチューブ：ポリプロピレン製の小型試験管で遠心分離に使う／DNA、RNA：遺伝子の本体をなす核酸。

遺伝子の微小世界を公開
青陵高生46人歓迎
重～いラスカー賞に触れる

ますます元気

現地の子どもたちとつくる岩田さん＝マラウイ・リロングウエ市



寄稿

HEART of AFRICA =マラウイからこんにちは

私はJICA（日本国際協力機構）のシニア海外ボランティアに応募して、2014年10月から2年間の予定でアフリカの小国で最貧国マラウイへ滞在しています。職種は土木、配属先は首都リロングウエ市で、都市のマスタープランの推進と課題解決の支援です。マラウイでは、同じJICAのシニアボランティア（SV）が6人、青年海外協力隊員70人が活動しています。

SVとしてマラウイへ来るまでに困難だった点は、低い英語力と高血圧などの健康問題でした。2013年11月応募、12月面接、2014年2月合格・再健康診断、7月福島で35日間の研修（施設内は禁酒）、9月語学Web Lesson、同年9月29日に入国しました。

ボランティア活動は、いたってゆっくり取り組んでい

マラウイ アフリカ大陸南東部の内陸に位置する共和制国家。イギリス連邦加盟国。面積は11万8千平方キロで、北海道と九州を合わせた広さ。人口は1,300万人。首都リロングウエ市の人口は近年急増し80万人。農業国で主にトモロコシを生産、タバコやコーヒーを輸出するが、社会基盤整備は遅れ世界最貧国の一つ。標高1,000mの高原上にあり、大きなマラウイ湖の国立公園など世界遺産が2件。日本人は日本大使館やJICAの関係者ら25人。その他、多数のボランティアが活躍している。

都計予算、人材不足に苦慮

ます。赴任早々、カウンターパート（パートナーの現地人）が3週間、秘書も2週間の休暇？ わざわざ日本からボランティアが来たのに！！ また市の財政は低迷。人口80万の街にゴミ収集車は3台、現地調査のための車はなし、市の道路事業は低迷、民間住宅開発は増大。こんな市の部局で都市開発の許可支援、社会資本施設のメンテナンス支援を中心に活動しています。土木・都市計画の予算も人材も少ない中、どう支援しよう取り組むか日々苦慮しています。

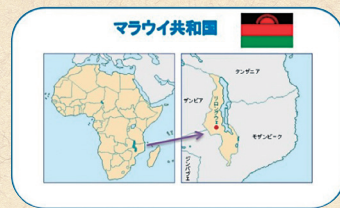
2015年10月でマラウイ生活も1年経過。病気もなく7年ぶりのゴルフ再開、週1回の音楽Lesson、3回の剣道練習指導など元気に楽しく生活しています。夜は車以外での外出が禁止されているため、夜更かしも深酒もなく週に6日は自らの男の手料理を楽しんでいます。

首都で車を運転中、交差点を曲がるとPolice数人に止められました。車検、保険、非常停止版、消火器OK。すると「Fanta Please!」（罰金は必要ないけど、コーラかファンタを買うお金を頂戴!）という意味のようでした。皆さんあげますか？ マラウイクワチャ 300＝¥70です。あげたら癖になるからあげない！ 喜ぶならあげる！ どちらでしょう？ 長い間、寄付・支援に甘えてきたマラウイの人々とマラウイ国。ここがこの国の大きな課題のような気がします。

2016年9月末に帰国の予定です。

□…岩田さんは在学中剣道部。(株)ウエスコ、(株)エイト日本技術開発で建設コンサルタントを36年務めました。

□…岩田さんのブログ「アフリカ・マラウイから（JICA・SV）／アジアの旅を楽しむ」を閲覧してください。詳細が分かります。



18期 岩田正晴（マラウイ滞在中）